

2017年6月6日

松戸市長 本郷谷健次 様
松戸市街づくり部 交通政策課 様

日本共産党松戸・鎌ヶ谷地区委員会
日本共産党松戸市議団
日本共産党千葉県議会議員 みわ由美

コミュニティバスならびに既存バス路線網を含む公共交通の充実を求める申し入れ

日頃からの市民のための献身に敬意を表します。

高齢者から若い世代までの広い市民からの、「社会参加や通院等の移動手段のためにも、コミュニティバスの導入を」と切望する声に応え、本市でも本年 12 月より中和倉地区に於いて、コミュニティバスの実証運行が開始されるに至りました事に、大いに評価をするものです。また、昨年度より市立病院への無料シャトルバスの運行を開始し、市民の通院に貢献を頂いている事に、併せての感謝を申し上げます。

松戸市でのコミュニティバスの試験運行が県内の市で最後となった事は残念ではありますが、これは全国・県内のコミュニティバスの成功・失敗の経験を全て活かす事ができるという事にも言い換えられます。近隣市での成功例として、浦安市の「おさんぽバス」が第一に挙げられ、徹底した住民参加での立案・計画により、乗車率は 82.8% (H27 年度)、収支率(運賃収入/運行経費)も約 67%と、千葉県全体のコミュニティバス事業の平均収支率 32.3%を大きく上回る数字を示している一方、流山市の「グリーンバス」は、つくばエクスプレスの開業に伴う交通体系の中で整備され、住民主導ではなかった事もあいまって、乗車率が 33%(H28 年度)と低く、コミュニティバスの導入における住民参加の重要性を示した事例として受け取ることができます。

一方で、既存のバス路線網についても、高齢化が進むもとで、より利用者に優しい、使いやすいバスである事が求められ、改善に向けた市とバス事業者との連携は不可欠です。

今後のバス路線を中心とした公共交通網の充実に向けて、中和倉地区でのコミュニティバス実証実験により良い結果を出すことができるよう、また、他の地区に於いても公共交通のよりいっそうの改善が図れるよう、下記の事項について要望するものです。

記

《コミュニティバスの実証運行について》

一、実証運行にあたっては、定期的な中間報告を行い、住民と共に改善に向

けての検証、見直しを図ること

一、利用料金を180円(小学生、障害者、高齢者等は90円)で確定とせず、利用者の声に合わせて、引き下げを図ること

一、収支率の目標値達成に拘らず、柔軟に対応すること

一、高齢者、障害者等の利用に配慮し、ノンステップバスの導入や、車内の安全確保に十分留意すること

《既存バス路線網について》

一、外出支援を促進するため、シルバーバスの導入など料金の緩和を含めた施策の検討を進めること

一、バス停の屋根やベンチの設置を進めること

一、歩道の幅を確保しつつ、バスベイの整備を進めること

《その他》

一、実証運行の対象とならなかった「交通不便地域」や、それ以外の地域も併せ、市民の意見を聴取する機会を設けるとともに、コミュニティバスの拡大など、公共交通施策の改善に向けた検討を図ること